

山形大学大学院農学研究科農学専攻

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況		
(1) 学生の確保の見通し	1
1) 定員充足の見込み		
2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要		
3) 学生納付金の設定の考え方		
(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況	5
2. 人材需要の動向等社会の要請		
(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	7
(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたもの	7
であることの客観的な根拠		

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

農学研究科（修士課程）農学専攻の入学定員については、現行（令和2年度）の農学研究科の3つの専攻（生物生産学専攻，生物資源学専攻，生物環境学専攻）の合計の入学定員よりも4名少ない32名を計画している。

専攻	入学定員	コース名	学位
生物生産学専攻	12名	安全農産物生産学コース 食農環境マネジメント学コース	修士 (農学)
生物資源学専攻	14名	食品・応用生命科学コース 植物機能開発学コース	
生物環境学専攻	10名	森林科学コース 水土環境科学コース	
計	36名		



専攻	入学定員	学位
農学専攻	32名	修士 (農学)

図1. 改組の概要

1) 定員充足の見込み

現行の農学研究科（修士課程）における定員充足の状況及び新しい農学研究科への進学希望に関する調査の結果から、入学定員32名の充足を十分に見込める状況にある。

2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

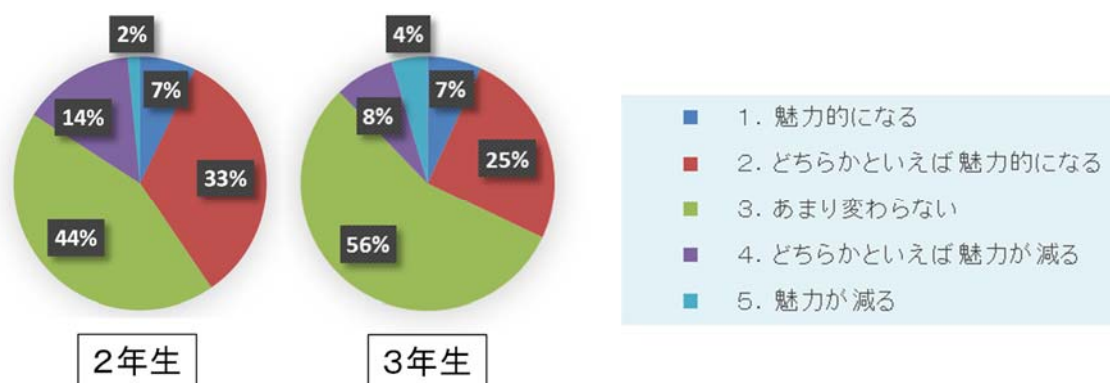
まず、現行の農学研究科（修士課程）の平成27年度から平成31年度までの入学者数と充足率を表1に示すが、過去5年間の平均入学者数は33.4名であり、これは改組後の入学定員32名の104%に相当する。このように、新体制の母体となる既設の専攻の入学志願状況から、改組後も安定して定員を充足できるものと考えられる。

表1. 過去5年間の志願者数と入学者数（3専攻の合計）

入学年度	H27	H28	H29	H30	H31	平均値
入学定員	48	42	42	42	42	
志願者数	40	38	44	38	38	39.6
入学者数	31	30	40	33	33	33.4
充足率%	64.5	71.4	95.2	78.6	81.0	83.5
入学者の内訳						
内部進学者	27	19	28	23	26	24.6
留学生	4	8	10	6	4	6.4

これに加えて、令和2年2月に、農学部2年生と3年生を対象として、「大学院への進学希望調査」を実施した。回答者は、2年生が127名（77%）、3年生が132名（80%）であった。まず、今回の改組に関して、「魅力的になる」または「どちらかといえば魅力的になる」

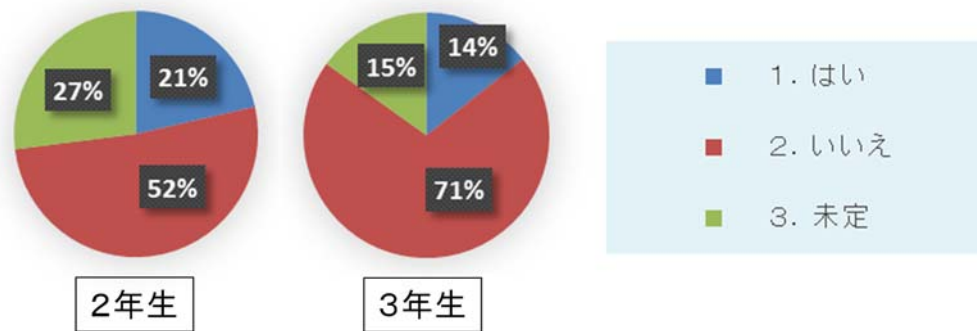
とポジティブな回答をした学生は、2年生で40%、3年生で32%であった(図2)。これは、「魅力が減る」または「どちらかといえば魅力が減る」とネガティブな回答をした学生より明らかに多かった。その理由として、「専門分野が異なる学生との交流や他研究科の教員の指導を受ける機会が増える」、「ときには文理を超えて多様な内容を学ぶことができる」、「農学研究科の最先端研究に触れることができる」を挙げる学生が多かった。この点に関連して、図5で後述するように、1専攻への再編を理由に大学院進学を希望しない学生は極めて少なく、今回の改組の内容は、農学部学生にとって十分に受け入れられる内容であった。



回答者数	2年生	3年生
1. 魅力的になる	9	9
2. どちらかといえば魅力的になる	42	33
3. あまり変わらない	55	73
4. どちらかといえば魅力が減る	18	10
5. 魅力が減る	2	6
計	126	131

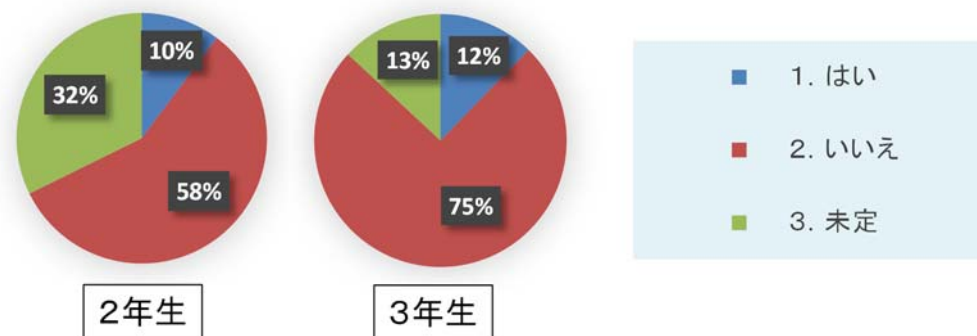
図2. 今回の大学院修士課程の再編をどのように評価しますか？

また、大学院進学については、図3の通り、2年生の21%、3年生の14%が大学院進学を希望していた。2年生からの1年間で、進学を希望しない学生(≒就職を希望する学生)が増えていることが分かる。山形大学の農学研究科に限定すると、進学希望者は2年生で10%、3年生で12%まで減少した(図4)。上述したように、改組の内容については高く評価しているにも関わらず、実際の進学希望者は多くなかった。ただし、2年次では進学先まで決めていない学生の割合が高いため、この時点で新たな農学研究科の魅力を伝えることで、本研究科への志願者を増やすことができるであろう。



回答者数	2年生	3年生
1. はい	27	19
2. いいえ	65	93
3. 未定	34	20
計	126	132

図3. あなたは（山形大学に限らず）大学院進学を考えていますか？



回答者数	2年生	3年生
1. はい	13	16
2. いいえ	73	97
3. 未定	41	17
計	127	130

図4. あなたは山形大学の農学研究科への進学を考えていますか？

参考のために、これまでの大学院入試の実績を表2に示す。当初から山形大学の農学研究科への進学を志望していた学生は、毎年3回のうち第1回入試を受けているはずである。この志願者は22名（学部定員の約13%）であり、今回のアンケートで明らかとなった志願者の割合と遜色がない。第2回、第3回の入試の志願者は、当初は就職希望であったが、適切な就職先が見つからなかったなどの理由で進学に切り替えた学生である。今後も企業の採用状況が大きく変わらない限り、同様の傾向が続くことと思われる。繰り返しとなるが、学生アンケートでは、今回の改組に対してはポジティブな回答が多かったことから、現在、山形大学への進学を未定と答えた学生が進学希望に変更する可能性は従来よりも高いはずである。以上より、新しい農学研究科への内部進学者の数は、過去5年間と同等あるいはそれ以上と見込んでいる。

表2. 過去5年間の入試の志願者数（3専攻の合計）

		H27	H28	H29	H30	H31	平均
第1回入試	山形大学卒業	22	17	18	19	16	18.4
7月実施	他大学卒業	1	1	1	1	3	1.4
	留学生	1	8	1	1	0	2.2
	社会人	0	0	0	0	0	0.0
	合計	24	26	20	21	19	22.0
第2回入試	山形大学卒業	11	3	8	4	11	7.4
12月実施	他大学卒業	0	0	1	2	0	0.6
	留学生	3	4	6	4	4	4.2
	社会人	0	1	0	2	0	0.6
	合計	14	8	15	12	15	12.8
第3回入試	山形大学卒業	2	3	1	2	1	1.8
3月入試	他大学卒業	0	1	0	0	0	0.2
	留学生	0	0	3	0	0	0.6
	社会人	0	0	0	0	0	0.0
	合計	2	4	4	2	1	2.6

これに加えて、外国人留学生の志願者にも期待している。過去5年間の実績で平均6.4名の留学生が入学している。インドネシア（主な協定校：ガジャマダ大学）とベトナム（主な協定校：ベトナム国立農業大学）からの留学生が多く、過去5年間の平均で2.2名（2カ国の合計）の学生を受け入れている。彼らの多くは、JASSOによる海外留学支援制度（協定受入）や山形大学農学部が独自で実施するサマースクールへの参加を通じて、修士課程進学を決めたようである。また、本研究科ではJICAが斡旋するアフリカの研修生を平成22年から受け入れており、過去5年間の受け入れ実績は平均で2.8名であった。

令和元年10月からはハノーヴァー大学とのダブルディグリープログラムが始まり、令和2年10月からは国費外国人留学生の優先配置プログラム（東南アジア諸国を対象とする）が開始される。これらのプログラムへの参加学生の分だけ、過去5年間の実績よりも留学生受入数は確実に増える。さらに、プログラムのために英語のみで修了できるカリキュラムを準備したことで日本語能力のハードルが下がり、プログラム外の留学生も今後増えると予想している。

以上をまとめて、学生確保の見通しを示す。まず、第1回入試を受ける内部進学者を、前述の学生アンケートで本研究科への進学を希望すると回答した3年生の16名とする。表2の過去5年の実績（18.4名）に比べるとやや少なく、アンケートに参加しなかった学生（35名）にも進学希望者がいると思われるがここには計上しない。第2回、第3回の入試を受ける内部進学者は、表2の実績から合計8名とする。この数は当初は就職と進学を併願していた学生の数であり、企業等の採用状況が今後悪化すれば、さらに増えることが想像できる。次に、他大学出身の進学希望者（3回の試験の合計）を表2の実績から2名とする。留学生について

は、表2の実績では3回の試験の合計で7名である。ここまでの進学希望者は33名であり、アンケートに参加しなかった学生を含まなくても、改組後の定員32名を上回っている。

さらに、前述したダブルディグリープログラム（目標とする参加学生数2名）と国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム（定員9名、うち留学生は6名）に参加する留学生を加えると、定員を超える学生の確保が大いに期待できる。

3) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成16年文科科学省令第16号）」に定める標準額を適用し、以下のとおり設定する。

授業料	年額	535,800円
入学料		282,000円
検定料		30,000円

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 経済支援制度（授業料免除、奨学金）の周知と支援

農学研究科（修士課程）では、山形大学大学院規則による入学料・授業料免除制度（全額免除／半額免除）に加え、「山形大学基金」による入学料、授業料または寄宿料の全部または一部免除等、「山形大学就学支援事業学生支援奨学金」による経済支援制度を学生にしっかりと周知・説明する。

2) 早期履修制度の整備

農学部の国際展開プログラムでは、科目等履修生として大学院科目（グローバル食農環境論）の先取り履修を認めている。このうち成績優秀な学生については、学部卒業後に推薦入試により大学院に進学して、1年間で大学院修士課程を修了できる「早期履修制度」を整備して、内部進学者の安定的な確保に努める。

3) 大学院設置基準第14条による教育方法、及び長期履修制度（社会人学生）の整備

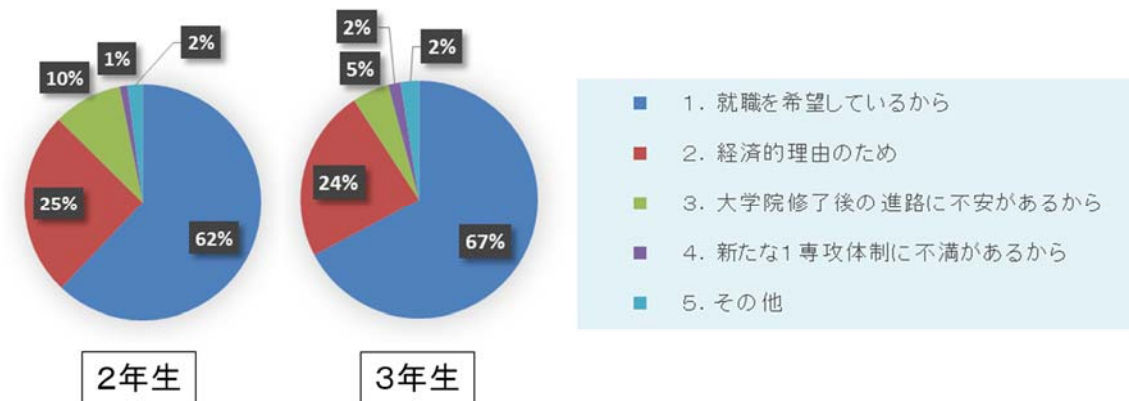
農学研究科（修士課程）では、社会人の入学者に対する就学支援として、大学院設置基準第14条による教育方法、及び長期研修制度を実施する。社会人学生の個々のニーズに合わせ、夜間・土曜日、ならびに夏季・冬季休業期間中の授業開講や研究指導を可能とする。また、社会人学生の履修を容易にするため、2年分の授業料で最長4年間在学できる「長期履修制度」も整備している。

4) 入学試験制度

農学研究科（修士課程）では、一般入試、推薦入試、外国人留学生試験、社会人入試を導入し、年3回実施している（推薦入試は1回のみ）。改組後も、このような様々な学生の属性やニーズに対応した入試制度を継続実施することで、学部からの進学者に加え、外国人留学生や社会人を安定的に確保していく。

5) 入学説明会等の開催

農学研究科（修士課程）では、入学説明会を毎年、年2回以上実施する。上記の1)～4)について、学部学生、社会人、留学生に資料を作成して分かりやすく説明する。さらに、接続する農学部の1,2年生にもキャリア教育と関連づけて、大学院進学について情報提供を行う。前述の学生アンケートでは、3年次に比べて2年次では、「進学を考えていない」と回答した学生の中でも、就職希望者の割合がやや少なく、大学院修了後の進路に不安がある者の割合がやや多かった（図5）。進路に迷っている学生を少しでも取り込めるように、2年次学生を対象にキャリアパス（修了者の進路情報）について丁寧に伝えていく。



回答者数	2年生	3年生	「5. その他」の内訳
1. 就職を希望しているから	59	80	・地元への帰省
2. 経済的理由のため	24	28	・雑な性格だから
3. 大学院修了後の進路に不安がある	9	6	・所属している研究室の先生が退職予定のため
4. 新たな1専攻体制に不満がある	1	2	・他にやりたいことがある
5. その他	2	3	・山形大学大学院に魅力を感じない部分が多い

図5. 「大学院進学を考えていない」と回答した理由

大学院進学を考えていないと回答した理由では、経済的な理由が2年生、3年生ともに1/4程度を占めていた（図5）。この点については、上記の説明会で周知するとともに、指導教員等からも経済的支援制度（授業料免除、奨学金）を紹介するなどに対応したい。

さらに、海外の学術交流協定校に対しては、大学院案内や支援制度をまとめた資料を送付する、あるいはコーディネーターの教員が出向いて説明会を行う他、英語版のウェブサイトの充実を図り、留学生の確保に努める。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

農学研究科は、地域や社会の人材養成需要に積極的に応えていくために、以下に示す人材の育成を目標としている。

- ①豊かな人間力、食料・生命・環境科学に関わる幅広い知識と、生物資源学、生物環境学、生物生産学の領域における深い専門性を身につけ、国際社会や地域社会の課題解決のために創造力を豊かに発揮できる人材を育成する。
- ②生物資源学、生物環境学、生物生産学の領域における深化した知識や技術のみならず、ランドスケープ科学にも精通し、グローバルな視点やキャリアパス、海外での研究遂行能力を身につけた人材を育成する。
- ③外国人留学生と日本人学生が、共に体系的な環境保全の知識と技術を習得し、国内外における農業生産の安定と我が国の食料安全保障に寄与するグローバルな視点を持った 21 世紀の環境リーダーを育成する。

この目標を達成するために、以下に示すディプロマ・ポリシーを掲げて教育研究を行う。

- ①豊かな人間力
 - a) 食料・生命・環境科学に強い関心を持ち、主体的・自律的に学習を継続できる。
 - b) 専門職従事者としての倫理観と責任感を持ち、コンプライアンス遵守の精神を身につけている。
- ②深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野
 - a) 各自の専門分野における高度な知識や技術を身につけている。
 - b) 文理を超えた様々な分野の専門的知識を理解し、多様化・複雑化した社会の要請に応じてそれを活用できる能力を有している。
- ③多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力
 - a) 国際社会や地域社会における専門分野に関わる課題を抽出・探求でき、その解決ために研究・開発する行動力を有している。
 - b) 他分野との共同作業ができ、創造的な事業に従事するための実践的な能力を有している。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

改組前の農学研究科における過去5年間の就職内定率を表2に示す。3つの専攻のいずれにおいても、ほぼすべての修了生が内定を獲得しており、これまでの農学研究科で行われてきた教育研究が社会的、地域的な人材需要の動向に合致していることが分かる。

表2. 農学研究科（修士課程）修了者の就職内定率

	H27	H28	H29	H30	H31	平均
生物生産学専攻	100%	83%	100%	100%	100%	96.7%
生物資源学専攻	100%	100%	100%	100%	100%	100%
生物環境学専攻	100%	100%	100%	100%	100%	100%

さらに、令和2年1月に、製造業、卸売・小売、公務、建設、情報通信等、多様な業種の企業等（計170社）を対象に「山形大学大学院（修士課程）の再編及び既設研究科の改組についてのアンケート調査」を実施した。その結果、農学研究科（修士課程）の改組内容について、「高く評価できる」または「ある程度評価できる」と回答した企業等は80%を超えていた（図6）。農学研究科で養成する人材に期待する知識・能力としては、「自ら課題を発見し、解決する能力」（86%＝「非常に期待する」または「やや期待する」と回答した割合）と「グローバル化する社会への対応力・広い視野」（80%）が目立っていた。グローバルな視点をもつ人材はまさに改組後の農学研究科で育成する人材像に一致しているし、「自ら課題を発見し、解決する能力」は基幹科目（研究実践科目）で養成できる。

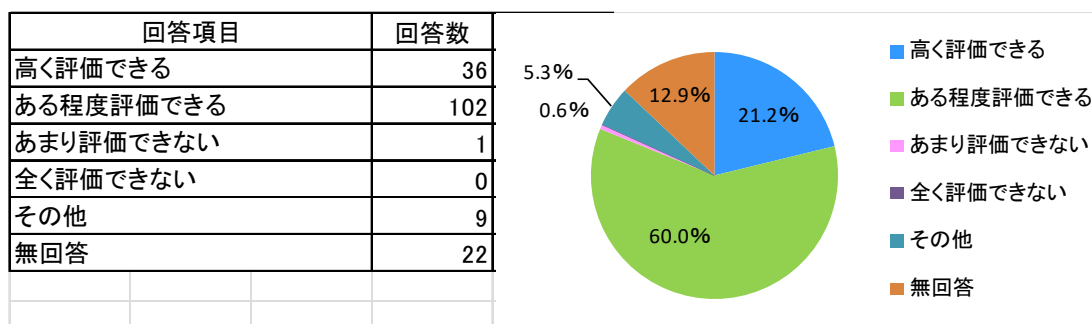


図6. 山形大学が改組を計画している大学院農学研究科（修士課程）について、どのように評価するか？

最後に、農学研究科（修士課程）で修了した大学院生の採用に関する質問に対しては、61%の企業等から前向きな回答を得た（図7）。改組によって増えると思込んでいる留学生についても、半数の企業等が採用の対象と回答した（図8）。このように、改組後の農学研究科で行われる教育研究は、これまで同様に社会的、地域的な人材需要の動向に合致していることが分かる。

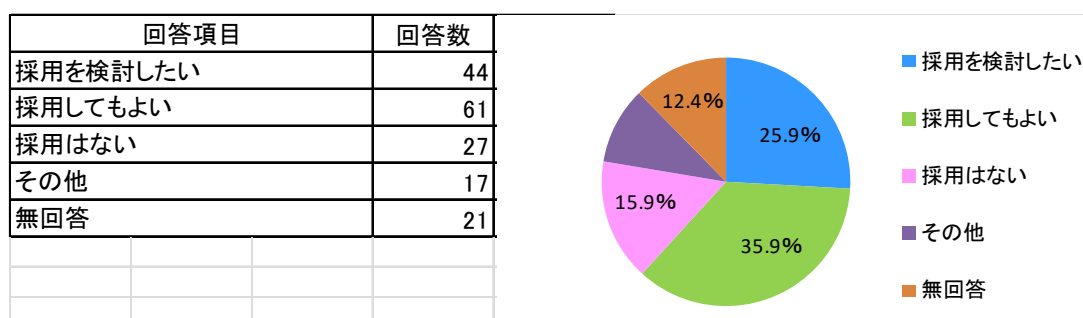


図7. 山形大学が改組を計画している大学院農学研究科（修士課程）を修了した
大学院生を採用したいと考えますか？

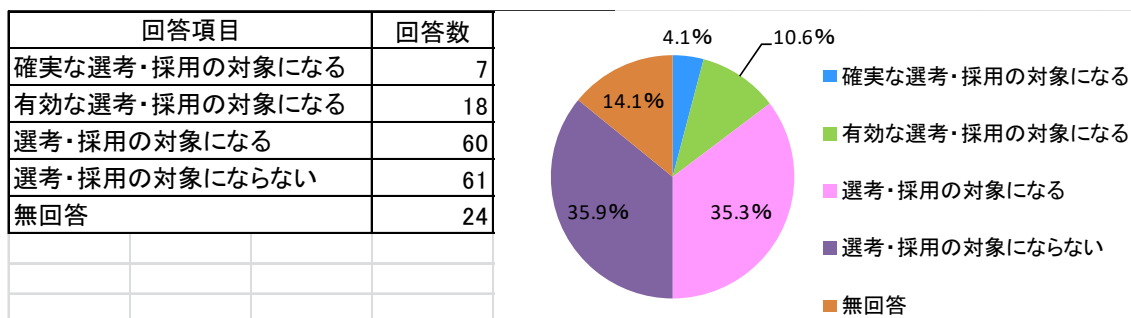


図8. 山形大学が改組を計画している大学院農学研究科（修士課程）で学んだ「留学生」は
選考・採用の対象になりますか？

学生確保の見通し等を記載した書類（資料）

目 次

資料 1 大学院への進学希望調査

資料 2 山形大学大学院（修士課程）の再編及び既設研究科の改組についての
アンケート調査

農学部2年生、3年生のみなさんへ

大学院への進学希望調査

令和2年2月

農学部学務課学務担当

山形大学大学院農学研究科では現在、大学院修士課程の再編(令和3年4月からスタート)に向けた準備を進めています。具体的には、現在の3専攻(生物生産学専攻・生物資源学専攻・生物環境学専攻)を1専攻(農学専攻)にまとめます。再編を行う理由、新しい体制やカリキュラムの内容については裏面をご覧ください。

このアンケートは、山形大学大学院農学研究科の「農学専攻」への進学希望状況を調査し、修士課程の再編のための参考資料とすることを目的としています。以下の質問に対する回答の選択肢から適当なものを選び、○印を付けていただければと思います。ご回答いただいたデータは今回の調査以外に使われることはありません。3年生の皆さんには昨年12月に同様のアンケートを行いました。再度のご協力をお願いいたします。

問1【全員回答】 あなたの学年を教えてください。 2年 ・ 3年

問2【全員回答】 あなたの所属コースを教えてください。

- | | | |
|----------------|-------------------|-----------------|
| 1. 安全農産物生産学コース | 2. 食農環境マネジメント学コース | 3. 食品・応用生命科学コース |
| 4. 植物機能開発学コース | 5. 森林科学コース | 6. 水土環境科学コース |

問3【全員回答】 裏面の説明を読んで今回の大学院修士課程の再編をどのように評価しますか？

- | | | |
|------------------|-------------------|-------------|
| 1. 魅力的になる | 2. どちらかといえば魅力的になる | 3. あまり変わらない |
| 4. どちらかといえば魅力が減る | 5. 魅力が減る | |

問4【問3で「1」または「2」と回答した方へ】 具体的にどの部分でより魅力的になると感じますか？(複数回答可)

- | | |
|--|--------------------------|
| 1. ときには文理を超えて多様な内容を学ぶことができる | 2. 農学研究科の最先端研究に触れることができる |
| 3. 専門分野が異なる学生との交流や他研究科の教員の指導を受ける機会が増える | |
| 4. 留学生との交流や海外留学の機会が増える | 5. その他() |

問5【全員回答】 あなたは(山形大学に限らず)大学院進学を考えていますか？ はい ・ いいえ ・ 未定

問6【全員回答】 あなたは山形大学の農学研究科への進学を考えていますか？

はい ・ いいえ ・ 未定 ※就職や他大学の大学院と併願する場合も「はい」と回答してください。

問7【問6で「いいえ」と回答した方へ】 進学を考えていないのはなぜですか？(複数回答可)

- | | | |
|---------------------|-------------|----------------------|
| 1. 就職を希望しているから | 2. 経済的理由のため | 3. 大学院修了後の進路に不安があるから |
| 4. 新たな1専攻体制に不満があるから | 5. その他() | |

質問は以上です。会場に設置された回収箱に提出してください。ご協力ありがとうございました。

令和3年4月からの農学研究科（案）

どうして、いま修士課程の再編を行うのか？

○SDGs達成のための持続可能な農業の確立や、地球環境に関わる諸問題解決に向けた研究には、複数の専攻や研究科が提供する専門知識や技術の習得が必要になっている。

○農学研究科では学際的なプロジェクト研究が増えているが、3専攻体制では、その成果に触れることができる学生に限られる。それらの研究遂行のために、専攻を越えて学生が交流する機会も少ない。

○国際貢献を指向する学生に対しては、教育プログラムの整備とともに、留学生との交流も大事であるが、現状では専攻間で留学生比率に差があり、留学生との交流の機会が少ない専攻がある。

これらの問題を解決するために、以下の通り3専攻を1専攻に再編して専攻の垣根を取り払うことで、留学生を含めた学生の交流を促しながら、農学研究科の教員が一体となって教育を行います。

専攻	入学定員	コース名	学位	専攻	入学定員	学位
生物生産学専攻	12名	安全農産物生産学コース 食農環境マネジメント学コース	修士 (農学)	農学専攻	32名	修士 (農学)
生物資源学専攻	14名	食品・応用生命科学コース 植物機能開発学コース				
生物環境学専攻	10名	森林科学コース 水土環境科学コース				
計	36名					

新しい修士課程では、どんなことを学ぶのか？（赤字が新設される科目）

分類	授業科目	区分	単位	科目の内容
大学院共通教育				
基盤教育科目	地域創生・次世代形成・多文化共生論	必修	2	農学研究科だけでなく、山形大学のすべての大学院生が身につけるべき教養を学ぶ
基礎専門科目	ものづくり概論, キャリアマネジメント, データサイエンスなど	選択必修	2	複数の研究科の学生にとって重要な専門基礎知識や技術を学ぶ
農学研究科における教育				
研究科共通科目	環境保全型食農連携研修	必修	1	環境保全型の農業や食産業の現場を見学
	農学最前線	選必	1	学際的なプロジェクト研究に関連した講義
	Intensive Scientific Communication	選必	1	英語によるコミュニケーション能力の向上
基幹科目	特論	選必	5	専門講義で、多様なテーマから5つを選択
	グローバル食農環境論	選必	5	英語による専門講義、5つのテーマを選択
	特別講義Ⅰ～Ⅲ	選択	1	学外から講師を招いての専門講義
研究実践科目	修士特別研究	必修	8	修士論文のための研究活動
	修士特別演習	必修	2	修士論文研究の計画や中間発表
	専門演習	選必	8	指導教員が提供する演習科目
	研究インターンシップ	選択	1	他研究科または他大学などでの研究活動

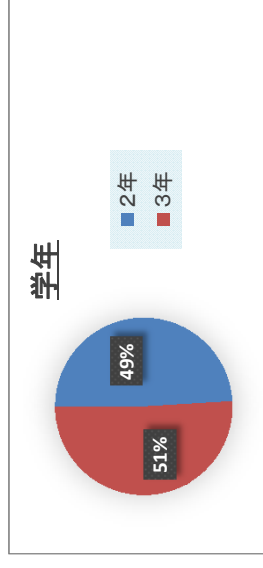
豊かな人間力、食料・生命・環境科学に関わる幅広い知識と深い専門性を身につけ、国際社会や地域社会の課題解決のために創造力を豊かに発揮できる人材を育成します！

【学年別】学生アンケート「大学院への進学希望調査」

●アンケート回収率78.5% (330人中259人) ※対象：学部2年生および3年生 実施：令和2年2月17日（月）～20日（木）

問1 あなたの学年を教えてください。

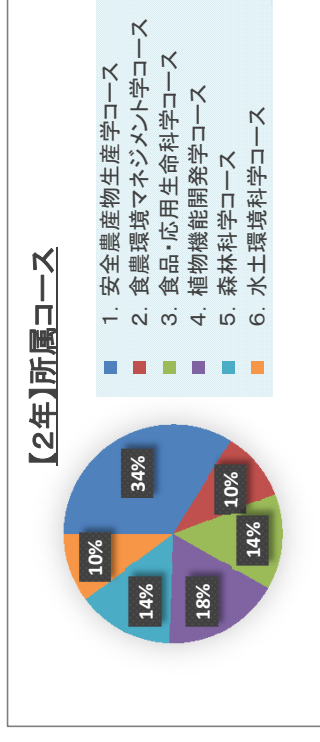
2年	127人
3年	132人



問2 あなたの所属コースを教えてください。

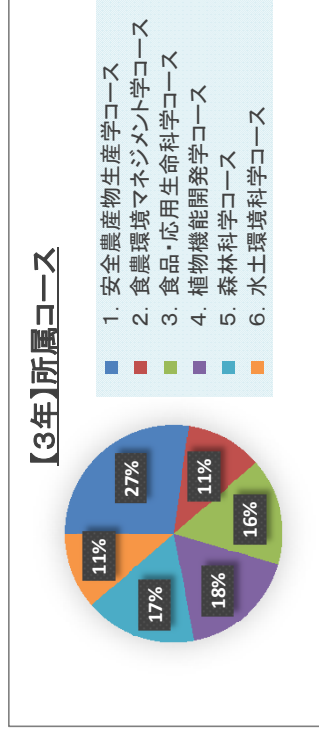
【2年】

1. 安全農産物生産学コース	43人
2. 食農環境マネジメント学コース	13人
3. 食品・応用生命科学コース	18人
4. 植物機能開発学コース	22人
5. 森林学コース	18人
6. 水土環境科学コース	13人
計	127人



【3年】

1. 安全農産物生産学コース	36人
2. 食農環境マネジメント学コース	15人
3. 食品・応用生命科学コース	21人
4. 植物機能開発学コース	23人
5. 森林学コース	22人
6. 水土環境科学コース	15人
計	132人

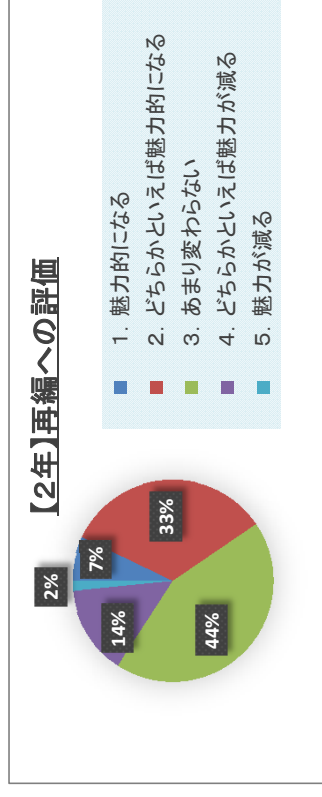


【学年別】学生アンケート「大学院への進学希望調査」

問3 裏面の説明を読んで今回の大学院修士課程の再編をどのように評価しますか？

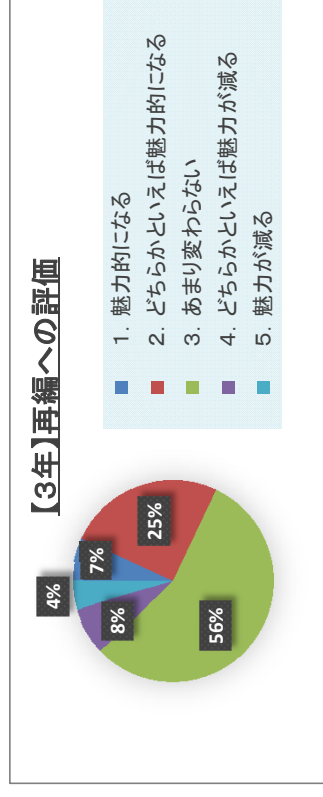
【2年】

1. 魅力的になる	9 人
2. どちらかといえば魅力的になる	42 人
3. あまり変わらない	55 人
4. どちらかといえば魅力が減る	18 人
5. 魅力が減る	2 人
計	126 人



【3年】

1. 魅力的になる	9 人
2. どちらかといえば魅力的になる	33 人
3. あまり変わらない	73 人
4. どちらかといえば魅力が減る	10 人
5. 魅力が減る	6 人
計	131 人



【学年別】学生アンケート「大学院への進学希望調査」

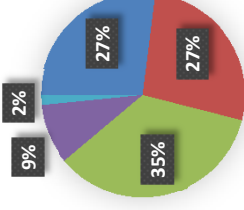
問4 【問3で「1」または「2」と回答した方へ】具体的にどの部分でより魅力的になると思えますか？（複数回答可）

【2年】

1. ときには文理を超えて多様な内容を学ぶことができる	17人
2. 農学研究科の最先端研究に触れることができる	17人
3. 専門分野が異なる学生との交流や他研究科の教員の指導を受ける機会が増える	22人
4. 留学生との交流や海外留学の機会が増える	6人
5. その他	1人
・インタビューシップの選択ができる	
計	63人

【2年】具体的な魅力的部分

- 1. ときには文理を超えて多様な内容を学ぶことができる
- 2. 農学研究科の最先端研究に触れることができる
- 3. 専門分野が異なる学生との交流や他研究科の教員の指導を受ける機会が増える
- 4. 留学生との交流や海外留学の機会が増える
- 5. その他

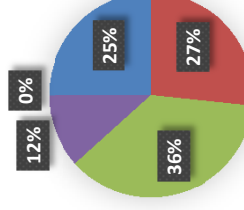


【3年】

1. ときには文理を超えて多様な内容を学ぶことができる	15人
2. 農学研究科の最先端研究に触れることができる	16人
3. 専門分野が異なる学生との交流や他研究科の教員の指導を受ける機会が増える	22人
4. 留学生との交流や海外留学の機会が増える	7人
5. その他	0人
計	60人

【3年】具体的な魅力的部分

- 1. ときには文理を超えて多様な内容を学ぶことができる
- 2. 農学研究科の最先端研究に触れることができる
- 3. 専門分野が異なる学生との交流や他研究科の教員の指導を受ける機会が増える
- 4. 留学生との交流や海外留学の機会が増える
- 5. その他



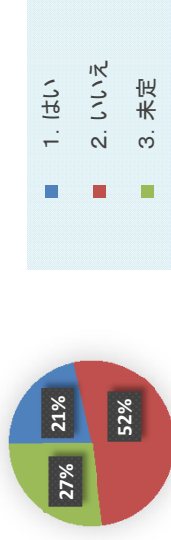
【学年別】学生アンケート「大学院への進学希望調査」

問5 あなたは（山形大学に限らず）大学院進学を考えていますか？

【2年】

1. はい	27 人
2. いいえ	65 人
3. 未定	34 人
計	126 人

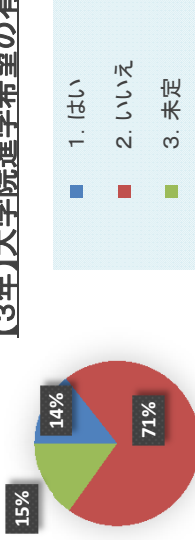
【2年】大学院進学希望の有無



【3年】

1. はい	19 人
2. いいえ	93 人
3. 未定	20 人
計	132 人

【3年】大学院進学希望の有無

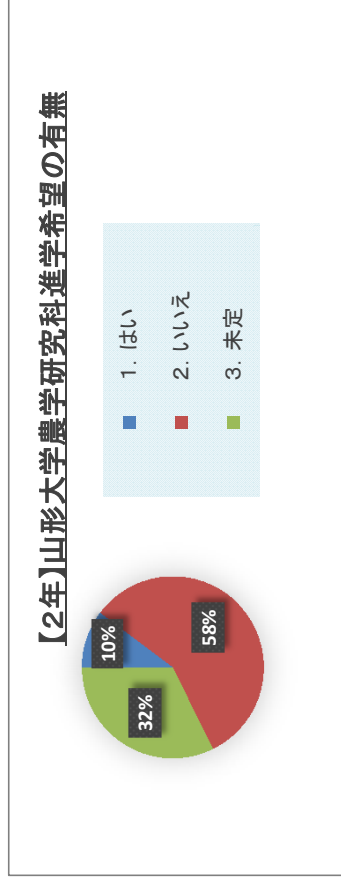


【学年別】学生アンケート「大学院への進学希望調査」

問6 あなたは山形大学の農学研究科への進学を考えていますか？

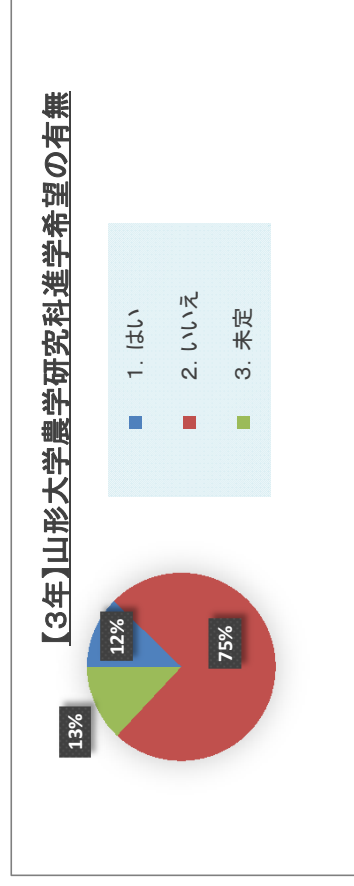
【2年】

1. はい	13 人
2. いいえ	73 人
3. 未定	41 人
計	127 人



【3年】

1. はい	16 人
2. いいえ	97 人
3. 未定	17 人
計	130 人

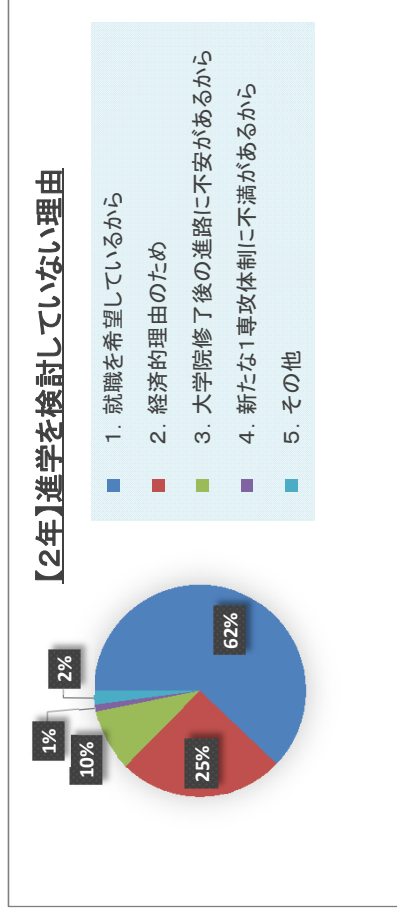


【学年別】学生アンケート「大学院への進学希望調査」

問7 【問6で「いいえ」と回答した方へ】進学を考えていないのはなぜですか？（複数回答可）

【2年】

- | | |
|--|------|
| 1. 就職を希望しているから | 59 人 |
| 2. 経済的理由のため | 24 人 |
| 3. 大学院修了後の進路に不安があるから | 9 人 |
| 4. 新たな1専攻体制に不満があるから | 1 人 |
| 5. その他 | 2 人 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 他にやりたいことがある • 山形大学の大学院に魅力を感じない部分が多いから | 95 人 |
| 計 | |



【3年】

- | | |
|---|-------|
| 1. 就職を希望しているから | 80 人 |
| 2. 経済的理由のため | 28 人 |
| 3. 大学院修了後の進路に不安があるから | 6 人 |
| 4. 新たな1専攻体制に不満があるから | 2 人 |
| 5. その他 | 3 人 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 地元への帰省 • 雑な性格だから • 所属している研究室の先生が退職予定のため | 119 人 |
| 計 | |



令和2年1月

山形大学大学院(修士課程)の再編及び既設研究科の改組について
のアンケート調査

・日頃より、山形大学の教育研究にご支援いただき、また、学生の就職にご配慮いただき、

誠にありがとうございます。

・このアンケート調査は、山形大学が令和3年度(2021年度)に計画している大学院(修士課程)の再編、具体的には社会文化システム研究科と地域教育文化研究科を統合した

[社会文化創造研究科(修士課程)]と、既設研究科の改組[農学研究科(修士課程)]について

て、貴社・既団体等のご意見を伺うことを目的として実施するものであります。

・このアンケート調査の結果は、統計資料と学生のキャリア支援の充実にのみ用い、他の

目的で使用することはありません。

・回答は、該当する番号に○をつけてください。必要に応じて記述欄への記入もお願いいたします。

・回答は、人材育成・採用に関わっている方をお願いいたします。

◆目次◆

P1 大学院(修士課程)の再編内容

P2~4 問 1~問 10 (研究科共通)

P5~7 問 11~問 16 (社会文化創造研究科)

P8~10 問 17~問 22 (農学研究科)

P10 問 23 (研究科共通)

業種によっては、どちらか一方への回答でも構いません。

山形大学

◆アンケート調査の回答期限についてお願い◆

令和2年2月14日(金)までに、郵送(同封の返信封筒)にてご回答いただきますようお願いいたします。

問合せ先

山形大学小白川キャンパス事務部総務課総務担当(地域教育文化学部)

電話: 023-628-4304

メールアドレス: kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

— ご協力をよろしくお願いいたします。 —

山形大学大学院（修士課程）の再編内容

現行

令和3年4月～

社会文化システム研究科

専攻	入学定員	学位
文化システム専攻	6名	修士(文学)
社会システム専攻	6名	修士(政策科学)

地域教育文化研究科

専攻	入学定員	学位
臨床心理学専攻	6名	修士(臨床心理学)
文化創造専攻	8名	修士(学術)

社会文化創造研究科

専攻	入学定員	集人員	コース	学位
社会文化創造専攻	24名	10名	社会文化システム	修士(文学) 修士(政策科学)
		7名	臨床心理学	修士(臨床心理学)
		7名	芸術・スポーツ科学	修士(学術)

農学研究科 【改組】

専攻	入学定員	コース	学位
生物生産学専攻	12名	安全農産物生産学コース	修士(農学)
		食農環境マネジメント学コース	
生物資源学専攻	14名	食品・応用生命科学コース	
		植物機能開発学コース	
生物環境学専攻	10名	森林科学コース	
		水土環境科学コース	

専攻	入学定員	学位
農学専攻	32名	修士(農学)

問4 山形大学大学院（修士課程）の再編では、地域企業、自治体等における実習等の導入を検討しています。

実習等の受け入れについて、お考えに近い番号を1つ選んで、○をつけてください。

- | | | | |
|----------------|---|---|-----|
| 1 ぜひ受け入れたい | } | → | 問5へ |
| 2 可能であれば受け入れたい | | | |
| 3 あまり受け入れたくない | } | → | 問6へ |
| 4 受け入れられない | | | |

問5 問4で「ぜひ受け入れたい」又は「可能であれば受け入れたい」を選択した場合、その理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 学生に事業内容等を理解してもらい、就職につなげるため
- 2 社員の成長につながるため
- 3 職場内の活性化
- 4 企業・団体等のPRにつなげるため
- 5 大学との連携を強化するため
- 6 その他（具体的に： _____)

問6 問4で「あまり受け入れたくない」又は「受け入れられない」を選択した場合、その理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 学生の受入体制が整っていないため
- 2 学生を受け入れてもメリットが無い
- 3 業務上の守秘義務が生じるため
- 4 実施する期間が無い
- 5 その他（具体的に： _____)

問 7 アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度について、該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

- 1 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
- 2 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
- 3 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

問 8 貴社・貴団体等の業種について、該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

- 1 農・林・漁・鉱業
- 2 建設業
- 3 製造業
- 4 情報通信業
- 5 運輸業
- 6 卸売・小売業
- 7 金融・保険業
- 8 不動産業
- 9 飲食店・宿泊業
- 10 医療・福祉
- 11 複合サービス業
- 12 サービス業
- 13 公務
- 14 その他（ ）

問 9 貴社・貴団体等の従業員数（正社員数）について、該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

- 1 50名未満
- 2 50名～100名未満
- 3 100名～500名未満
- 4 500名～1,000名未満
- 5 1,000名～5,000名未満
- 6 5,000名以上

問 10 貴社・貴団体等では山形大学の大学院修了生を採用していますか。該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

- 1 採用している
- 2 採用したことはない

令和3年4月からの農学研究科（案）

農学研究科では、**豊かな人間力**、**食料・生命・環境科学に関わる幅広い知識**や**深い専門性**を身につけ、**国際社会や地域社会の課題解決**のために**創造力を豊かに発揮できる人材**を養成します。

具体的な目標

- ・地域社会が抱える複雑な問題に対応できる、幅広い分野の知識や技術を身につけた人材の育成
- ・新産業創出に結びつく、AIやIoT等の最先端技術を活用した革新的な農林水産技術の開発研究
- ・専門分野の高度な知識や技術を備えたグローバル人材の育成と、SDGs達成に貢献できる研究

これまでの3専攻を1専攻に統合して、専攻(専門分野)の垣根を取り払います。

専攻	入学定員	コース名	学位		専攻	入学定員	学位
生物生産学専攻	12名	安全農産物生産学コース 食農環境マネジメント学コース	修士 (農学)	➔	農学専攻	32名	修士 (農学)
生物資源学専攻	14名	食品・応用生命科学コース 植物機能開発学コース					
生物環境学専攻	10名	森林科学コース 水土環境科学コース					
計	36名						

統合された1専攻の教育課程では、科目選択の幅が広がります。英語の科目も増えます。

分類	授業科目	区分	単位	科目の内容
大学院共通教育				
基盤教育科目	地域創生・次世代形成・多文化共生論	必修	2	農学研究科だけでなく、 山形大学のすべての大学院生が身につけるべき教養 を学ぶ
基礎専門科目	ものづくり概論, キャリアマネジメント, データサイエンスなど	選択必修	2	複数の研究科の学生にとって重要な専門基礎知識や技術 を学ぶ
農学研究科における教育				
研究科共通科目	環境保全型食農連携研修	必修	1	環境保全型の農業や食産業の現場を見学
	農学最前線	選必	1	学際的なプロジェクト研究 に関連した講義
	Intensive Scientific Communication	選必	1	英語によるコミュニケーション能力 の向上
基幹科目	特論	選必	5	専門講義で、多様なテーマから 5つ を選択
	グローバル食農環境論	選必	5	英語による専門講義 , 5つのテーマ を選択
	特別講義Ⅰ～Ⅲ	選択	1	学外から講師を招いての 専門講義
研究実践科目	修士特別研究	必修	8	修士論文のための 研究活動
	修士特別演習	必修	2	修士論文研究の 計画や中間発表
	専門演習	選必	8	指導教員が提供する 演習科目
	研究インターンシップ	選択	1	他研究科または他大学などでの研究活動

問 22 山形大学が改組を計画している大学院農学研究科（修士課程）で学んだ「留学生」は、選考・採用の対象になりますか。該当する番号を1つ選んで、○を付けてください。

- 1 確実な選考・採用の対象になる
- 2 有効な選考・採用の対象になる
- 3 選考・採用の対象になる
- 4 選考・採用の対象にならない

問 23 最後に、山形大学が令和3年度(2021年度)に予定している大学院研究科（修士課程）の再編・改組について、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にご記入ください。

その他、山形大学の教育内容・活動について、ご意見等があれば、あわせてご記入ください。

※ 貴社・団体名、所在地、ご担当者名、ご所属(役職)、ご連絡先(電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス)をご記入ください。

(名刺を同封していただく場合は、下記の記載は不要です)

貴社・団体名 _____

所在地 _____

ご担当者名 _____

ご所属(役職) _____

電話番号 _____

ファックス番号 _____

電子メールアドレス _____ @ _____

◇◇最後までご協力いただき、ありがとうございました。◇◇

農学研究科の改組に関する企業等アンケート集計結果

実施期間: 令和2年1月～2月

回答率: 170社/500社(34.0%)

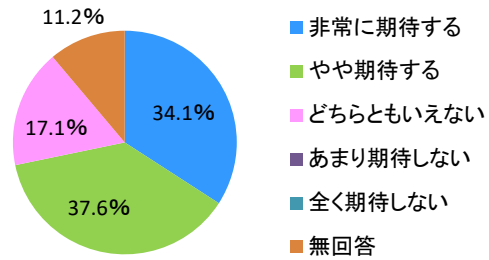
製造	卸売・小売	公務	建設	情報通信	サービス	金融・保険	医療・福祉
41 (24.1%)	27 (15.9%)	21 (12.4%)	15 (8.8%)	14 (8.2%)	12 (7.1%)	9 (5.3%)	5 (2.9%)
複合サービス	農林漁鉱	運輸	不動産	飲食・宿泊	その他	無回答	計
5 (2.9%)	4 (2.4%)	3 (1.8%)	2 (1.2%)	1 (0.6%)	8 (4.7%)	3 (1.7%)	170社 (100.0%)

(1) 大学院農学研究科(修士課程)への期待(問17)

[質問] 山形大学が改組を計画している大学院農学研究科(修士課程)において養成する人材に対して、どのような知識・能力を期待しますか。

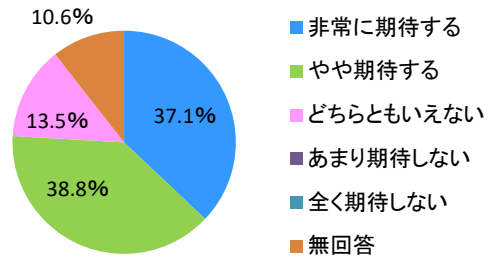
① 高度な専門知識・技術

回答項目	回答数	割合
非常に期待する	58	34.1%
やや期待する	64	37.6%
どちらともいえない	29	17.1%
あまり期待しない	0	0.0%
全く期待しない	0	0.0%
無回答	19	11.2%



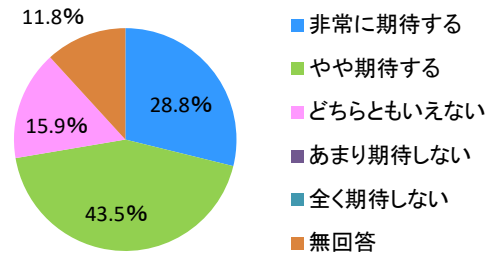
② 専門知識・技能の応用力

回答項目	回答数	割合
非常に期待する	63	37.1%
やや期待する	66	38.8%
どちらともいえない	23	13.5%
あまり期待しない	0	0.0%
全く期待しない	0	0.0%
無回答	18	10.6%



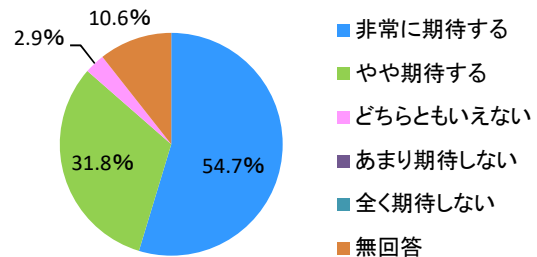
③ 他の専門分野を俯瞰する能力

回答項目	回答数	割合
非常に期待する	49	28.8%
やや期待する	74	43.5%
どちらともいえない	27	15.9%
あまり期待しない	0	0.0%
全く期待しない	0	0.0%
無回答	20	11.8%



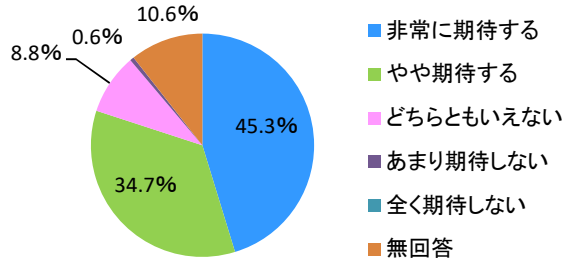
④ 自ら課題を発見し、解決する能力

回答項目	回答数	割合
非常に期待する	93	54.7%
やや期待する	54	31.8%
どちらともいえない	5	2.9%
あまり期待しない	0	0.0%
全く期待しない	0	0.0%
無回答	18	10.6%



⑤ グローバル化する社会への対応力・広い視野

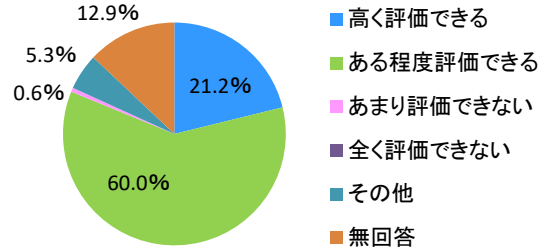
回答項目	回答数	割合
非常に期待する	77	45.3%
やや期待する	59	34.7%
どちらともいえない	15	8.8%
あまり期待しない	1	0.6%
全く期待しない	0	0.0%
無回答	18	10.6%



(2) 大学院農学研究科(修士課程)の評価(問18)

[質問] 山形大学が改組を計画している大学院農学研究科(修士課程)について、どのように評価しますか。

回答項目	回答数	割合
高く評価できる	36	21.2%
ある程度評価できる	102	60.0%
あまり評価できない	1	0.6%
全く評価できない	0	0.0%
その他	9	5.3%
無回答	22	12.9%

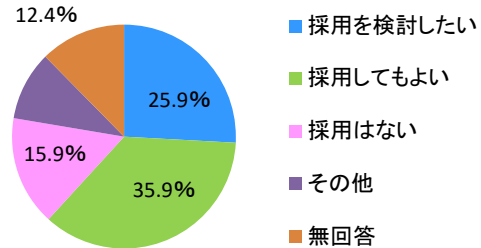


(3) 大学院農学研究科(修士課程)修了者の採用(問19~21)

[質問] 山形大学が改組を計画している大学院農学研究科(修士課程)を修了した大学院生を採用したいと考えますか。

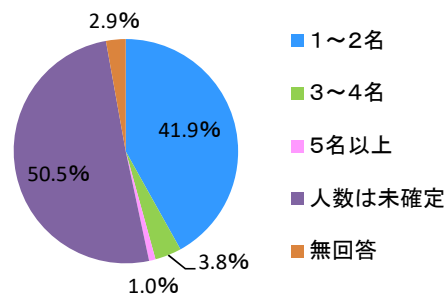
① 採用意向

回答項目	回答数	割合
採用を検討したい	44	25.9%
採用してもよい	61	35.9%
採用はない	27	15.9%
その他	17	10.0%
無回答	21	12.4%



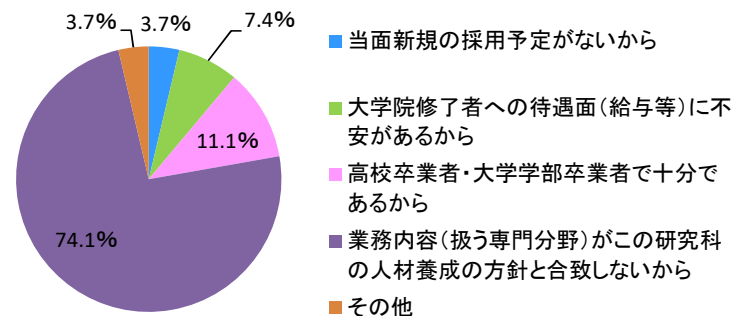
② 採用人数

回答項目	回答数	割合
1~2名	44	41.9%
3~4名	4	3.8%
5名以上	1	1.0%
人数は未確定	53	50.5%
無回答	3	2.9%



③ 採用へのハードル

回答項目	回答数	割合
当面新規の採用予定がないから	1	3.7%
大学院修了者への待遇面(給与等)に不安があるから	2	7.4%
高校卒業者・大学学部卒業者で十分であるから	3	11.1%
業務内容(扱う専門分野)がこの研究科の人材養成の方針と合致しないから	20	74.1%
その他	1	3.7%



(4) 大学院農学研究科(修士課程)留学生の採用等(問22)

[質問] 山形大学が改組を計画している大学院農学研究科(修士課程)で学んだ「留学生」は、選考・採用の対象になりますか。

回答項目	回答数	割合
確実な選考・採用の対象になる	7	4.1%
有効な選考・採用の対象になる	18	10.6%
選考・採用の対象になる	60	35.3%
選考・採用の対象にならない	61	35.9%
無回答	24	14.1%

